

責任銀行原則

参考和訳¹

銀行は社会において重要な役割を果たしています。金融仲介機関として、持続可能な経済の発展を支援し、人々がより良い未来を築けるようにすることが、我々銀行の目的です。銀行業は、お客さまや広く社会から信頼され、お客さまと社会の最善の利益のために責任を持って行動することが求められます。

銀行業として利益を上げ続けることができ、また適切であり続けることができるかどうかは、本質的に我々がサービスを提供する社会の長期的な繁栄にかかっています。我々は人々の尊厳、平等、そして天然資源の持続可能な利用にもとづくインクルーシブ（包摂的）な社会があつてこそ、我々のお客さまひいては自らの事業が繁栄できると確信しています。

そのため、現在と将来の世代の共通の繁栄を実現するために必要な経済やライフスタイルの根本的な変化を後押しし加速するため、我々はリーダーシップを発揮し、商品、サービス、ビジネス上の関係を活用したいと考えています。

従って、我々は以下の原則で示された意欲的な目標に対して積極的に取り組むものとします²。

1. 整合性（アラインメント）

事業戦略を、持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定及び各国・地域の枠組で表明されているような個々人のニーズ及び社会の目標と整合させ、貢献できるようにする。

2. インパクトと目標設定

我々の事業および提供する商品・サービスから生じる人々や環境へのネガティブ・インパクト（悪影響）を低減しリスクを管理する一方で、継続的にポジティブ・インパクト（好影響）を増加させる。そのために、主要なインパクトを与え得る分野に対して目標を設定してそれを公表する。

3. 顧客（法人・リテール）

顧客と協力して、持続可能な慣行を奨励し、現在と将来の世代に共通の繁栄をもたらす経済活動を可能にする。

4. ステークホルダー

社会の目標を達成するために、積極的かつ責任をもって関連するステークホルダーと協議、関与、連携を行う。

5. ガバナンスと企業文化

実効的なガバナンスと責任ある銀行業の文化を通じて、これらの原則に対する我々のコミットメントを実施する。

6. 透明性と説明責任

これらの原則の個別および全体的な実施状況を定期的に見直し、ポジティブおよびネガティブ・インパクト、および社会の目標への貢献について、透明性を保ち、説明責任を果たす。

機関名

CEO氏名

日付:

¹ 本参考和訳は日本における責任銀行原則発足署名機関である株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社三井住友フィナンシャルグループ、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社（英語表記のアルファベット順）の4銀行によって作成された。

² 原則は、いかなる場合も署名銀行の法的または契約上の義務と矛盾する形で解釈されてはならず、また、当該法的又は契約上の義務は、これらの原則に優先する。本原則のいかなる規定も、明示的・黙示的にかかわらず、何人かによる、または何人かに対する権利または訴訟原因を生じさせる、あるいは生じることを承諾するものでもない。